

平成27年度 学校自己評価システムシート (県立熊谷商業高等学校)

目指す学校像	歴史と伝統を受け継ぐとともに、先進的なビジネス教育を融合させ、地域社会をリードする人材を育成する。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 開かれた学校づくりをとおして地域との連携を推進し、意欲と適性のある生徒募集に組織的に取り組む。 基礎・基本を重視したきめ細やかな「わかる授業」を推進し、学習意欲を高め基礎学力の向上に取り組む。 基本的な生活習慣の確立と、生徒の自主的な活動の習慣化に取り組む。 生徒の進路希望実現に対応した、継続的・体系的な進路指導に取り組む。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	2名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	6名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年度評価 (2 月 1 日 現 在)		
年 度 目 標					年度評価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<ul style="list-style-type: none"> 本校を含む商業高校全体の志願倍率が低下している。 商業高校の利点を周知し、資格取得や部活動等に意欲ある志願者を増加させることが課題である。 	募集人員を満たす志願者数の確保	<ol style="list-style-type: none"> 学校説明会、体験入学、進学フェア、専門高校説明会等を実施する。 中学校主催や塾主催の説明会への参加、保護者見学会や上級学校訪問への対応、出前授業や中学校訪問を行う。 商業高校の魅力伝える資料を作成し、誰もが同じ説明ができるよう工夫する。 部活動による中高連携や地域連携を行う。 学校ホームページの随時更新や熊商ジャーナルの発行による、積極的な情報発信を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 学校説明会、体験入学等10回以上実施したか。 中学校主催や塾主催の説明会へ10回以上参加したか。 商業高校の魅力伝える資料を作成し、十分活用した生徒募集が実施できたか。 部活動による中高連携や地域連携を実施したか。 学校ホームページの随時更新や熊商ジャーナルの発行など、積極的な情報発信を行ったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会等の参加者が大幅に増え、12月現在の調査で、昨年に比べて志願者も増加している。 ②③学校説明会、体験入学等は、8回実施し、模擬面接等を企画するなど、参加者増となり、参加者からも高い満足度を得た。 中学校・塾主催等の説明会にも12回参加し、志願者確保に努めた。「熊商生の活躍」や「資格と部活の熊商」等を発行するなど、商業高校の魅力を発信した。 ④部活動において、小・中学生への技術講習や熊商杯、地域イベント参加、展覧会等を実施した。 ⑤学校ホームページの随時更新や熊商ジャーナルを発行し、近隣地域に配布した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、教務部の広報担当を中心に企画・運営してきたが、さらに広報を強化するための、組織改革が必要である。 商業高校の魅力を中学生や保護者だけでなく、中学校の教職員に発し、的確な進路指導を実現させる必要がある。
2	<ul style="list-style-type: none"> すべての授業で、生徒は真面目に取り組む、資格取得に前向きである。 自ら学ぶ姿勢と基礎学力の定着が課題である。 	学習習慣の確立と学力向上	<ol style="list-style-type: none"> 学年ごとに「朝学習」に取り組む。 実験、実習や演習など生徒が主体的に学習する場を増やす。 習熟度別授業など、個々の生徒に応じた指導を工夫する。 各種検定を活用して、計画的な学習を促すとともに、奨励級の合格により達成感を与える。 力のある生徒には、より上位の資格にも挑戦させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 学年ごとに計画的に、「朝学習」に取り組むめたか。 実験、実習や演習など生徒が主体的に学習する場が設定できたか。 習熟度別授業など、個々の生徒に応じた工夫した指導を行ったか。 ④⑤各種検定を活用して、計画的な指導を実施し、より上位の資格取得を実現させたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 真面目に学習に取り組む生徒は多いが、学力の低下が見られ、検定合格率も例年に比べてやや低い。 ①学年ごとに朝学習に取り組む、進路や資格取得の実現に向けた学習習慣を身に付けさせた。 ②協働学習など、生徒が主体的に学習する授業展開を試みた。 ③④成績不振者が増加したため、より丁寧な学習指導や補習等を計画的に実施した。 ⑤日簿記検定1級や基本情報技術者等高度資格取得者もいた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「わかる授業」を推進するために、教材研究や学習指導の研修会等実施し、さらなる指導力の研鑽に努める。 「朝学習」の効果もあると感じる。生徒がもっと主体的に取り組めるとよい。 資格取得の結果や卒業後の進路に関する情報発信を、もっと積極的に進めていければいいのではなか。 丁寧な授業もあるが、進度が早くついてゆくのが大変な授業もある。
3	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動は少なく、落ち着いた学校生活となっている。 部活動が盛んで、運動部も文化部も大きな成果を残している。 一部に規範意識の低下が見られることと、安心安全の確保が課題である。 	規範意識の向上と部活動の充実	<ol style="list-style-type: none"> 「いじめ防止等のための対策に関する基本的な方針」に沿って、組織的にいじめ防止に取り組む。 対話を重視した生活指導を行い、熊商生としての自覚とプライドを持たせる。 雨天時の自転車通学者にカッパを義務付けるなど、交通法規遵守を徹底する。 学校周辺地域の清掃活動を実施する。 部活動外部指導者の活用を推進する。 大会実績や地域交流など、各部活動の活躍を積極的に情報発信する。 	<ol style="list-style-type: none"> 「いじめ防止等のための対策に関する基本的な方針」に沿って、組織的にいじめ防止に取り組めたか。 対話を重視した生活指導を行い、生徒一人一人に規範意識を持たせられたか。 自転車通学者の雨天時カッパ着用率が上昇したか。 学校周辺地域の清掃活動を実施できたか。 部活動外部指導者の活用が十分できたか。 学校掲示板等を活用し、部活動の大会結果等を地域に情報発信できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな事件、事故もなく落ち着いた学校生活ができてきている。 ①②担任を中心に生徒と十分なコミュニケーションを持った指導を行い、「規範意識の向上」と「いじめ防止」を図ることができた。 ③自転車通学者の雨天時カッパ着用率は上昇したが、数名傘さし運転の生徒がみられる。 ④部活動などが、学校周辺の清掃活動を実施した。 ⑤10の部活動で、外部指導者を活用した。 ⑥ホームページや学校掲示板等を活用し、部活動の実績を地域への情報発信を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員間での情報の共有化を図り、適切な生徒指導体制を構築する。 「いじめ防止」「規範意識の向上」を目指した指導を継続的に進める。 来年度は「自転車マナーアップ推進校」になる。交通ルールの遵守を目指した指導を実施する。
4	<ul style="list-style-type: none"> 進学も就職も毎年100%の希望実現ができる。 より高い目標に挑戦できるよう、早い時期から進路意識を高めることが課題である。 	進路決定の保障と生徒一人一人の進路意識の向上	<ol style="list-style-type: none"> 1、2年生の進路ガイダンスを充実させ、高い志を持たせる。 新たに、「面接ノート」を作成し、進学・就職双方の指導に活用する。 公務員や看護など進路希望に応じた補習を行う。 管理職や進路指導部による企業訪問を実施する。 大学との連携を強め、進学者を増加させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 進路意識向上を目指した1、2年生の進路ガイダンスを計画どおり実施できたか。 新たに作成した、「面接ノート」を活用し、進学・就職指導が計画どおり実施できたか。 公務員や看護など進路希望に応じた補習を計画どおり実施できたか。 企業訪問等を実施した結果、求人数も増加した。 1社目での合格率80%を達成した。 ⑤進学者数は、例年並みだが、中堅以上の大学にも多数合格した。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生は、ほぼ全員が希望の進路を決定した。 ①計画どおり進路ガイダンス等を実施した結果、生徒個々の進路意識の向上が図れた。 ②作成した「面接ノート」を3年生全員に配布し、有効に活用した指導を行い就職内定率100%を達成した。 ③計画どおり毎月補習を行い、公務員8名・看護5名の合格者を出した。 ④企業訪問等を実施した結果、求人数も増加した。1社目での合格率80%を達成した。 ⑤進学者数は、例年並みだが、中堅以上の大学にも多数合格した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導において、生徒の実態にあった計画を作成し、継続的に実施する必要がある。 ④⑤4年生大学等の進学者を増加させてほしい。 作成した「面接ノート」の活用法や記入法等の事前指導を、さらに充実させる。 公務員、看護への希望者を対象とした補習等来年度も計画どおり行う。 企業訪問等を計画的に実施し、特に女子事務職の求人開拓を行う。 指定校推薦のほか、公募推薦やAO入試での進学者も増やしたい。

学 校 関 係 者 評 価

実施日 平成28年 2月23日

学校関係者からの意見・要望・評価等

- 学科(商業科と情報処理科)の違いがなかなか中学生に理解されていない。生徒目線の情報発信に工夫してほしい。また、中学校の教員にも、専門高校のことをもっと知ってもらいたい
- 本校の入学選抜の一つに「面接」が課せられている。中学生にとっては、人生初の面接がある。今年の学校説明会では、「模擬面接」を実施してもらい、中学生や保護者から好評であった。
- 部活動においては、小・中学生に技術指導や大会(熊商杯)を実施し、地域連携が十分に図られている。また、熊商ジャーナルやホームページ等での情報発信が十分に行われている。
- 資格取得を実現するため、計画的な補習等が実施されている。今年度は、日簿記1級合格者も輩出し、指導の結果が現れている。
- 「朝学習」の効果もあると感じる。生徒がもっと主体的に取り組めるとよい。
- 資格取得の結果や卒業後の進路に関する情報発信を、もっと積極的に進めていければいいのではなか。
- 丁寧な授業もあるが、進度が早くついてゆくのが大変な授業もある。
- 中学校でもネットトラブルが多発している。生徒だけでなく、保護者への注意喚起も必要である。
- 情報モラルの講演会で、正しい知識を覚えてもらったのがよかった。
- 自転車の並列走行等、交通ルールを順守せず周りに迷惑をかけている場面がある。イヤホンや傘さし運転等注意したい。
- 「面接ノート」の活用が、就職希望者の進路実現に大きく役立ったようである。
- ④⑤4年生大学等の進学者を増加させてほしい。
- 学校説明会等で、「商業高校からも大学への進学が可能である」と言うことを、中学生や保護者に情報提供してほしい。
- 進学希望者向けに予備校や専門学校との連携業務があるとよい。
- 就職・進学ガイダンスや企業・大学見学会等増やせるとよい。
- 進路の手引きに重要な情報が載っているのでもっとよく読むべきである。